



シンポジウム「箱根火山とともに生きる」を開催しました!

箱根ジオパーク推進協議会が9月16日に神奈川県立生命の星・地球博物館でシンポジウム「箱根火山とともに生きる」を開催したよ!



講演では、神奈川県温泉地学研究所の万年主任研究員が「箱根火山2015年噴火で分かったこと」についてお

話してくれたよ。神奈川県は1960年以降、箱根火山の研究監視をしてきたんだって。地震がほとんどおきない時期もあったけど、2001年に「噴火未遂」をしたんだって。これを契機に研究が進み、防災対策も充実したので、2015年の噴火の時には噴火前に大涌谷が閉鎖されるなどして、人的被害を0にすることが出来たんだって。

そして、秋田大学の林教授と子どもたちとの「キッチン火山実験」! コーラの中にメントスを入れたら、すごい勢いでコーラの泡が吹き出たよ! これは火山の噴火と同じ現象で、マグマにもガスが溶け込んでいて、圧力が下がると急激に泡が発生して飛び出すんだって! おいらもビックリしたよ~

今回のシンポジウムの中で、林教授の「火山が噴火するのは当たり前で、それ以上の恩恵を受けている」という言葉が印象に残ったよ。

箱根も火山だからこそ豊かな湧水をたくわえ、温泉をもたらし、見事な景観を造りだしたんだね!

おいらも火山についていろいろ教えてもらって、楽しい時間を過ごせたよ!



「ココアとコンデンスミルクでカルデラ実験」カルデラはできるかな?



「メントスとコーラの噴火実験」5mくらい吹き飛んだよ!

定員 20名
申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、電話かメールで申し込んでください。
照会先 箱根ジオパーク推進協議会事務局
☎ 85-9560
✉ hakojiro@town.hakone.kanagawa.jp

「石」から生まれる地球のダイナミックな営みと私たちの歴史や文化にも関わりの深いストーリーを学芸員と一緒に楽しく学びましょう!
日時 10月21日(日)10時~14時(受付開始9時45分)
場所 県立生命の星・地球博物館(小田原市入生田49-9)

真鶴半島を産地とする本小松石をはじめ箱根火山から噴出した石、石碑や江戸城の石垣にも使用された石など学芸員の解説とともに本物の岩石を用いて岩石標本を作成します。

第2回サポーター講座「箱根火山の岩石標本をつくろう!」参加者募集!

開催期間 10月13日(土)~11月25日(日)
照会先 箱根町立郷土資料館
☎ 85-7601

幕府軍から脱走して拳兵した遊撃隊は、小田原藩などの協力を得るためにこの地を訪れます。一方、勤王・佐幕の両論に揺れ動いた小田原藩ですが、最終的に両者は5月26日、町内の山崎付近で激しい戦いを繰り広げました。この戦いの前には、箱根關所で両者が衝突したほか、湯本も戦火に見舞われるなど、箱根の地にも大きな影響を及ぼしました。

今から150年前の1868年に勃発した戊辰戦争において、箱根が戦場となったことは、あまり知られていません。

郷土資料館秋の企画展「戊辰箱根戦争—小田原藩X遊撃隊—」

~「箱根土曜塾」の教材について~

箱根土曜塾は、受講生の学力に応じて5つのグループ(5~6名)に分かれ、各グループの講師が、受講生に合わせたプログラムにより、授業を行っています。



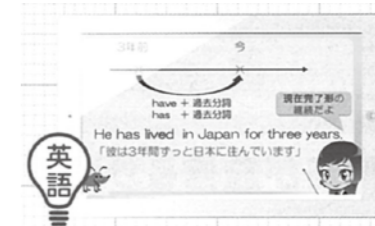
授業では、オリジナルのテキストを使用し、演習を繰り返し行い、講師が丁寧に解説していきます。

演習で解いた問題の答えを、受講生に積極的に発表してもらうことで、理解の定着を深めていきます。

オリジナルテキストに加えて、1人1台のタブレットで、学習ソフトを使用し、予習・復習も行っています。学習ソフトは、受講生が分かりやすく学習できるよう、演出や出題形式が工夫されています。

演出効果の1つに、問題を解き、正解すると、はこじ郎が正解を教えてください!

この他、希望校への合格率をより高めるため、今年度から、英単語テスト・計算演習を行っています。



学習ソフト

箱根町『園・小・中学校一貫教育(分離型)』

園・小交流編

町では、各小学校区で幼稚園・保育園・幼児学園の園児と小学校の児童が定期的に交流しています。

9月11日、宮城野保育園と仙石原幼児学園の年長児が、箱根の森小学校を訪問し、同校の5年生と運動会で一緒にやる種目「いっしょにぐるぐる(台風の目)」を練習しました。

子ども達は、とても楽しんでいる様子で、5年生からは「元気な園児と触れ合えて楽しかった。」「運動会当日も楽しみに来てほしい。」「初対面だったけど、楽しく会話ができて良かった。」「入学式で手をつなぐのが楽しみになった。」などの声が聞かれました。

また、その日、園児は1年生とも交流し、鬼ごっこ・金魚にがし遊び・じゃんけんジェンカを一緒に行いました。

1年生は、園児に遊びの説明をしたり、やり方を見せたりして、お兄さん・お姉さんらしさが見られました。

こうした交流を積み重ねていくことで、園児は、小学校入学への安心感と期待感を高めることができ、学校生活になじめない状態が続く「小1プロブレム」の未然防止につながります。そして、小学校児童は、自分が誰かの役に立っていると感じる「自己有用感」が高まり、自分の行動などに自信を持ったり、他者との関わりを充実させたりすることにつながります。

園児と児童が交流している様子



運動会の練習をする園児と5年生



じゃんけんジェンカで交流する園児と1年生